

# 地場企業の経営動向調査

(平成20年度 第3・四半期)

平成21年1月 30日

 福岡商工会議所

事業推進部 経済振興グループ

TEL 092-441-1118

## 調査目的

福岡市内地場企業（一部福岡市近郊を含む）の景況及び経営動向を把握すると同時に、これらの情報を企業へ提供し、企業経営の参考に資するものである。

## 調査対象

当所会員企業を対象とし1,500社を任意抽出したもので、対象企業の内訳は中小企業 1,425社（構成比率95.0%）、大企業75社（構成比率5.0%）により構成されている。

回答した企業数は634社、回答率42.3%となっており、回答企業の内訳は、中小企業588社（構成比率92.7%）、大企業46社（構成比率7.3%）となっている。

中小企業の範囲は中小企業基本法の定義に基づく。

## 調査要領

四半期毎にアンケート用紙を郵送、前年同期比の回答を求めるもので、今回は平成20年10～12月期の実績、及び平成21年1～3月期の予想について、平成20年12月末時点で調査した。

## 調査内容

DI値を集計（DI=「良いとする回答割合」-「悪いとする回答割合」）

DI・・・ Diffusion Index（景気動向指数）の略

### 景気・経営動向調査

1. 自社・業界の景況
2. 生産額、売上額、完成工事高
3. 原材料・製（商）品仕入価格
4. 受注価格、販売価格
5. 製（商）品在庫
6. 営業利益
7. 売掛期間
8. 資金繰り
9. 100万円以上の新規借入

平成20年度 第3・四半期

調査対象企業数及び回収結果

規模別	対象数	回答数	回答率	回答結果の構成比
全業種	1,500	634	42.3%	
中小企業	1,425	588	41.3%	92.7%
大企業	75	46	61.3%	7.3%

業種別	対象数	回答数	回答率	回答結果の構成比
全業種	1,500	634	42.3%	
建設業	314	149	47.5%	23.5%
土木建設業	114	54	47.4%	8.5%
建設付帯工事業	79	44	55.7%	6.9%
電気・管工事業	121	51	42.1%	8.0%
製造業	221	107	48.4%	16.9%
食料品製造業	46	26	56.5%	4.1%
繊維製品製造業	13	6	46.2%	0.9%
建材・木・紙製品製造業	7	2	28.6%	0.3%
印刷・製本業	44	17	38.6%	2.7%
窯業・土石製品製造業	8	4	50.0%	2.7%
金属製品製造業	23	16	69.6%	2.5%
一般機械器具製造業	20	10	50.0%	1.6%
電気機械器具製造業	24	19	79.2%	3.0%
その他製造業	36	7	19.4%	1.1%
卸売業	333	139	41.7%	21.9%
食料品卸売業	63	20	31.7%	3.2%
繊維製品卸売業	65	22	33.8%	3.5%
建材・住宅機器卸売業	60	24	40.0%	3.8%
紙・文具・事務機卸売業	6	4	66.7%	0.6%
金属・鋼材卸売業	2	1	50.0%	0.2%
一般機械器具卸売業	32	15	46.9%	2.4%
電気機械器具卸売業	13	7	53.8%	1.1%
石油・化学製品卸売業	12	6	50.0%	0.9%
ゴム・皮革製品卸売業	2	1	50.0%	0.2%
その他卸売業	78	39	50.0%	6.2%
小売業	210	70	33.3%	11.0%
食料品小売業	44	12	27.3%	1.9%
衣料品・身の回り品卸売業	45	15	33.3%	2.4%
石油・化学製品小売業	25	5	20.0%	0.8%
車両運搬具小売業	14	7	50.0%	1.1%
家電・厨房器具小売業	10	8	80.0%	1.3%
百貨店・セルフ店	11	5	45.5%	0.8%
その他小売業	61	18	29.5%	2.8%
運輸・倉庫業	62	24	38.7%	3.8%
旅客運送業	16	5	31.3%	0.8%
貨物運送・倉庫業	46	19	41.3%	3.0%
サービス業	360	145	40.3%	22.9%
情報処理サービス業	51	25	49.0%	3.9%
その他事務所サービス業	216	85	39.4%	13.4%
ホテル・旅館・飲食業	55	19	34.5%	3.0%
その他の個人サービス業	38	16	42.1%	2.5%

## 「 福商・経営動向調査 」 調査結果

### 景況概況 (DI 値の動き)

1. 自社業況は、今期 60.9 となり、前期との比較ではマイナス 14.0 ポイントと大きく落ち込み 8 期連続での悪化となった。  
業種別に対前期比をみると、全産業中、今回の調査で小売業が+9.6 ポイント (前期 DI 61.1) と 2 期ぶりに改善したものの、卸売業-26.1 ポイント (前期 DI 35.1)、サービス業-23.0 ポイント (同 39.7)、製造業-10.3 ポイント (同 42.1)、建設業-9.3 ポイント (同 59.2)、運輸・倉庫業-6.7 ポイント (同 60.0) の悪化となった。  
業種別においては、小売業を除く全産業で軒並み悪化となり、マイナス幅が拡大した。その中でも特に、卸売業 (前期比マイナス 26.0 (DI 61.1)) やサービス業 (前期比マイナス 23.0 (同 62.7)) においてマイナス幅が大きく、受注・販売競争の激化や売上の伸び悩み、販売価格への転嫁ができずに利益を圧迫している状況等により、悪化幅が拡大した。  
次四半期 (H21 年 1~3 月) の全業種予測 DI 値は 65.9 (今期比マイナス 5.0 ポイント) となっており、さらに悪化の予測となっている。
2. 業界の景気動向は、今期 83.5 と前期との比較ではマイナス 11.7 ポイントと 8 期連続して悪化した。  
次四半期については 79.0 とプラス 4.5 ポイントの改善が予測されている。
3. 生産額、売上高、完成工事高は、今期 51.5 と前期との比較ではマイナス 15.4 ポイントとなり、6 期連続して悪化した。  
次四半期については 60.2 とマイナス 8.7 ポイントの悪化が予測されている。
4. 原材料、製(商)品仕入価格は、今期 40.4 と前期との比較ではマイナス 24.5 ポイントで 7 期ぶりに下落となった。  
次四半期については 14.7 とマイナス 25.7 ポイントの下落予測となっている。
5. 受注価格、販売価格は、今期 31.9 と前期との比較ではマイナス 15.8 ポイントの悪化となっている。  
次四半期については 38.2 とマイナス 6.3 ポイントの悪化が予測されている。
6. 営業利益は、今期 58.7 と前期との比較ではマイナス 10.0 ポイントの悪化となっている。  
次四半期については 61.5 とマイナス 2.8 ポイントの悪化が予測されている。
7. 売上増加の理由は、「受注、需要の増加」59.1%、「得意先開拓・客数の増加」47.0%に集中している。  
一方で減少した理由としては、「受注、需要の減少」82.2%、「客単価の低下」35.1%、「得意先開拓・客数の減少」31.3%、「出荷・販売価格の上下、料金改定」27.7%の順となっている。

8. 当面の経営上の問題点としては、「売上高、生産額、工事高の伸び悩み」67.8%、「営業利益の低下」58.5%、「受注、販売競争の激化」56.9%、「販売価格への転嫁難」27.6%、「経費の増加」21.5%の5項目を指摘する傾向が続いており、全業種ともほぼ5項目に集中している。
- 他に指摘が集中した項目として、建設業の「官公需要の停滞」46.3%、小売業の「同業者、類似店、大型店の進出」27.1%が挙げられ、さらに前期まで上位項目であった「原材料高、入手難」が全業種で前期の35.6%から19.6%へと減少したことが特徴となっている。

#### 参考指標

日経平均株価	8,859.56 円	(平成20年12月30日 終値)
対米ドル円相場終値	90.27 円	(平成20年12月30日 終値)
対ユーロ円相場終値	127.01 円	(平成20年12月30日 終値)
原油価格(WTI)	US\$ 44.60/バレル	(平成20年12月31日 終値)

## 景気判断

平成21年1月の月例経済報告（内閣府）では景気の基調判断を「景気は急速に悪化している。」とし、また、企業の業況判断についても「大幅に悪化している。」とし、2カ月続けて大幅に悪化となった。

併せて「企業収益は、大幅に減少している。設備投資は、減少している。雇用情勢は、急速に悪化しつつある。個人消費は、このところ弱含んでいる。輸出、生産は、極めて大幅に減少している。先行きについては、当面、悪化が続くとみられ、急速な減産の動きなどが雇用の大幅な調整につながる事が懸念される。加えて、世界的な金融危機の深刻化や世界景気の一層の下振れ懸念、株式・為替市場の大幅な変動の影響など、景気をさらに下押しするリスクが存在することに留意する必要がある。」としている。

当所の今四半期（平成20年10～12月）調査において、地場企業の自社業況判断指数（DI値＝前年同期と比較し「良くなった」とする回答割合から「悪くなった」とする回答割合を引いた数値）の全業種平均DI値は60.9で前期比マイナス14.0ポイントと8期連続での悪化となった。

### 【DI値の推移】

H17 第4 期	H18 第1 期	H18 第2 期	H18 第3 期	H18 第4 期	H19 第1 期	H19 第2 期	H19 第3 期	H19 第4 期	H20 第1 期	H20 第2 期	H20 第3 期
10.4	17.1	17.4	11.2	16.9	17.0	28.2	29.6	35.8	45.2	46.9	60.9

## まとめ

今期の自社業況については、8期連続しての悪化となった。業種別においては、6業種中5業種で悪化がみられた。

次四半期の予測DI値は65.9となっており、9期連続の悪化（今期比マイナス5.0ポイント）が予測されている。

DI値は（平成3年度第2・四半期以来）70期連続でマイナス値となった。

全般的に、今期は原材料、製（商）品仕入価格DIは7期ぶりに下落へ転じたものの、メーカーの生産調整等のため依然として高止まりしており「原材料、燃料費等仕入れ価格が値上りしている一方で販売価格の値上げは難しく、収益を圧迫する状況が続いている」「全体的な景気の低迷による競争激化の為、販売価格の低下を招き利益が減少して

いる」といった声が目立っている。

加えて、生産額、売上高、完成工事高 DI が 6 期連続、また受注価格、販売価格は 3 期連続して悪化し、営業利益が 2 期ぶりに悪化に転じており、度重なる原材料・製（商）仕入価格等の上昇に対して、販売価格への転嫁が追いつかず、苦慮していることがうかがえる。

規模別において、大企業では、自社業況 DI 値が前期比マイナス 21.9 ポイント(DI 値 50.1)と悪化に転じ、調査対象 9 割を占める中小企業の自社業況 DI 値も、前期比マイナス 13.7 ポイント(DI 値 61.8)と 6 期連続しての悪化となり、規模にかかわらず景況感是一段と悪化していることがうかがえる。その中で、大企業の営業利益はマイナス 29.8 ポイント、中小企業はマイナス 8.8 ポイントと大企業においても収益性の低下により、厳しい経営環境が続いている。

業種別においては、小売業を除く全産業で軒並み悪化となりマイナス幅が拡大した。その中でも特に、卸売業（前期比マイナス 26.0 (DI 61.1)）やサービス業（前期比マイナス 23.0 (同 62.7)）においてマイナス幅が大きく、受注・販売競争の激化や売上の伸び悩み、販売価格への転嫁ができずに利益を圧迫している状況等により、悪化幅が拡大した。また、次期予測においても、全産業でさらなる悪化を予測している。

#### 回答企業の主なコメントより(抜粋)

- ・ 九州経済をけん引してきた自動車、IC 関連の工場の設備投資が延期、凍結され公共事業もなく原材料費の高騰によりたいへん厳しい (建設)
- ・ 大手企業の地方への商品の安価供給で同業の地方零細企業は厳しい状況。大手小売の PB の安値に対抗できない。 (製造)
- ・ 半導体業界は設備投資の凍結、延期が相次ぎ非常に厳しい。建設機械業界は取引先の破綻が相次いでいる。当面、外部環境は厳しいと認識。 (卸売)
- ・ 小売業を取り巻く経営環境の悪化と個人消費の低迷。特に消費税の売価への転嫁が厳しい。取引先の倒産による新規取引先の開拓が課題。 (小売)
- ・ 10 月に入って原油が下がってきているがまだ予断を許さない。世界的な不況の中で体力勝負で淘汰が進む。 (運輸)
- ・ 大型催事の減少。企業の販促費、設備投資減少。金融不安に端を発した消費者の買い控えが強まり、経営環境が悪化している。 (サービス)

# 1. 自社・業界の景況

《自社景況は8期連続して悪化、次期予測はさらに悪化へ》

今四半期（H20年10～12月）の地場企業の景況判断指数（DI値）は、全業種平均で「良くなった」と回答した企業割合は10.2%（前期比-2.3ポイント）、「悪くなった」と回答した企業割合は71.1%（前期比+11.7ポイント）、「横ばい」と回答した企業割合は18.1%（前期比-9.4ポイント）となった。DI値は 60.9（前期DI 46.9）となり、前期比で-14.0ポイントと大幅に悪化した。

業種別に対前期比でDI値を見ると、全産業中、今回の調査で小売業が+9.6ポイント（前期DI 61.1）と2期ぶりに改善したものの、卸売業-26.1ポイント（前期DI 35.1）、サービス業が-23.0ポイント（同 39.7）、製造業-10.3ポイント（同 42.1）、建設業-9.3ポイント（同 59.2）、運輸・倉庫業-6.7ポイント（同 60.0）の悪化となった。

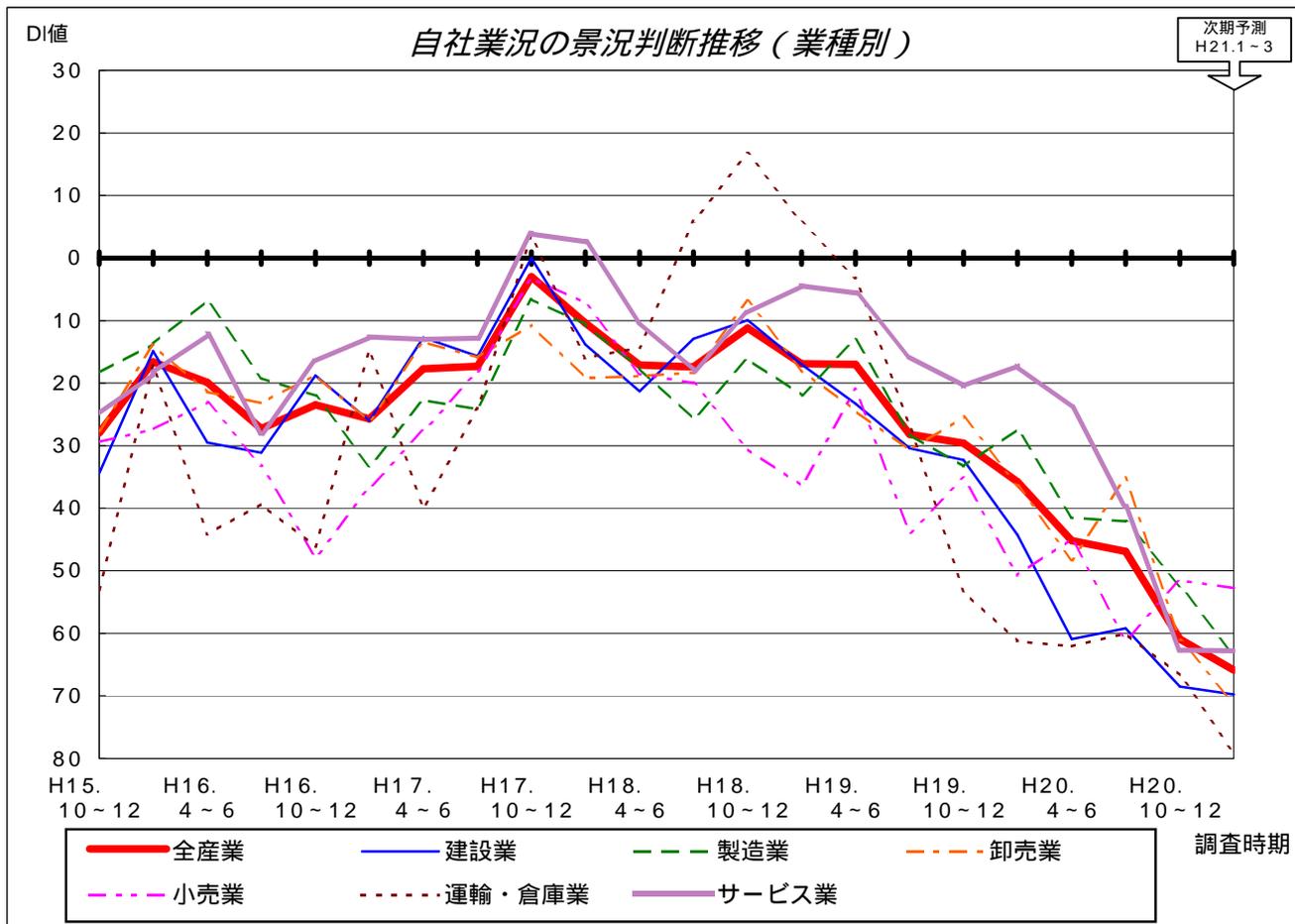
また、規模別のDI値を見ると、中小企業は前期比-13.7ポイント（前期DI 48.1）悪化し、大企業では-21.9ポイント（同 28.2）の悪化となった。

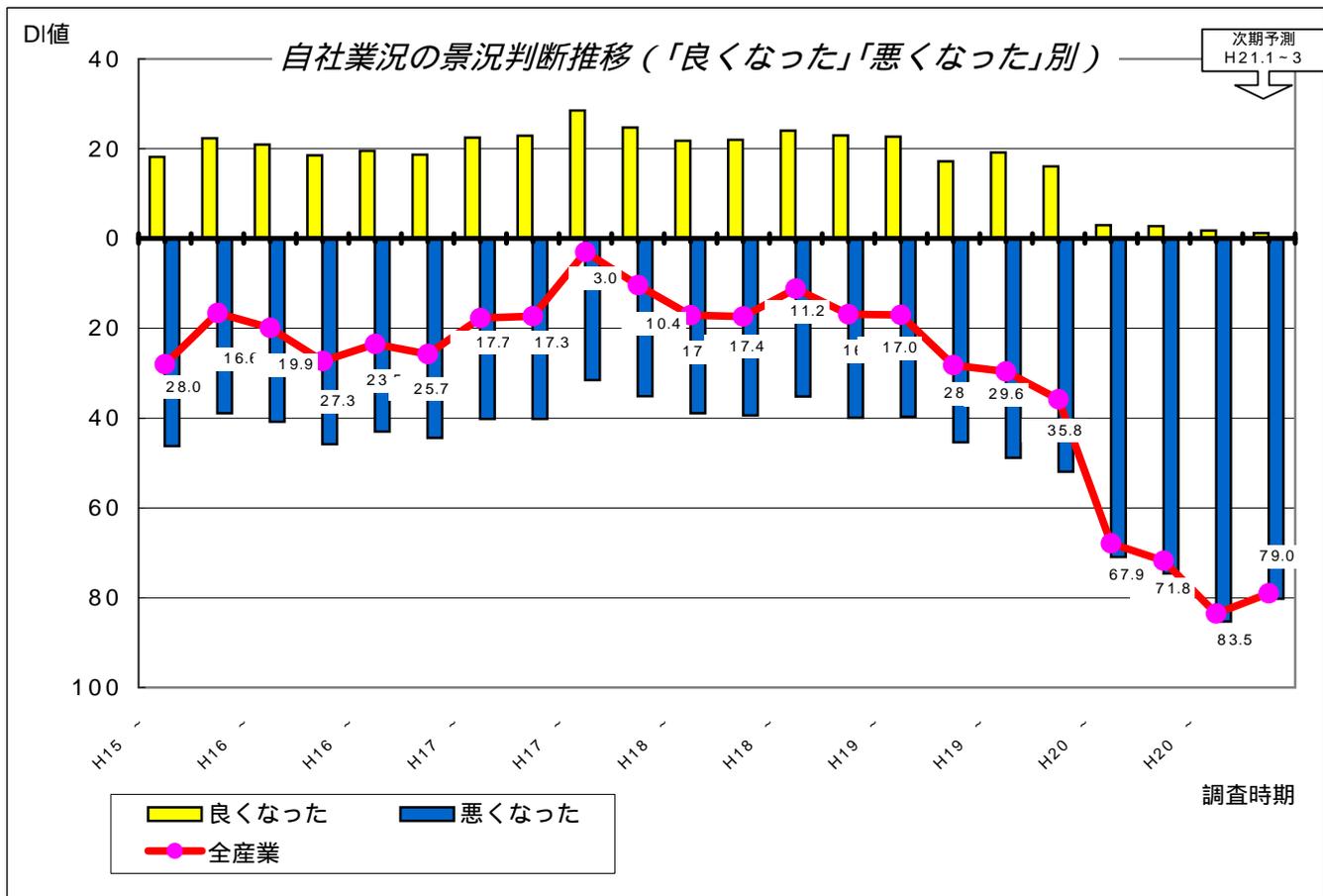
次四半期（H21年1～3月）の全業種予測DI値は 65.9（今期比-5.0ポイント）となっており、さらなる悪化が見込まれている。

（自社業況の総合判断（前年同期と比較して））

（単位 %）

	今四半期(20年10～12月期)実績							次四半期(21年1～3月期)予測						
	非常に良くなった	やや良くなった	横ばい	やや悪くなった	非常に悪くなった	未記入	DI値	非常に良くなる	やや良くなる	横ばい	やや悪くなる	非常に悪くなる	未記入	DI値
全業種	1.4	8.8	18.1	45.1	26.0	0.5	60.9	0.5	5.5	19.1	42.1	29.8	3.0	65.9
建設業	1.3	4.7	19.5	51.0	23.5	0.0	68.5	0.7	2.7	18.8	38.3	34.9	4.7	69.8
製造業	0.9	12.1	20.6	34.6	30.8	0.9	52.4	0.0	4.7	24.3	43.9	24.3	2.8	63.5
卸売業	2.9	10.1	11.5	49.6	24.5	1.4	61.1	0.0	6.5	12.9	46.8	30.9	2.9	71.2
小売業	1.4	17.1	11.4	40.0	30.0	0.0	51.5	2.9	10.0	18.6	37.1	28.6	2.9	52.8
運輸・倉庫業	0.0	4.2	25.0	41.7	29.2	0.0	66.7	0.0	4.2	12.5	58.3	25.0	0.0	79.1
サービス業	0.7	6.2	23.4	45.5	24.1	0.0	62.7	0.0	6.2	22.8	40.0	29.0	2.1	62.8
中小企業	1.5	8.3	18.0	45.7	25.9	0.5	61.8	0.5	5.3	18.9	42.2	30.1	3.1	66.5
大企業	0.0	15.2	19.6	37.0	28.3	0.0	50.1	0.0	8.7	21.7	41.3	26.1	2.2	58.7





### 業界の景況

《自社景況は8期連続して悪化、次期予測はさらに悪化へ》

地場企業から見た自社の属する業界の景況判断指数（DI値）は、全業種平均で「良くなった」と回答した企業割合が1.8%、「悪くなった」と回答した企業割合が85.3%、「横ばい」として回答した企業割合が11.7%となっており、DI値は83.5（前期DI 71.8）と前期比で-11.7ポイント悪化している。

業種別に対前期比でDI値を見ると、全業種で悪化となりサービス業が-18.3ポイント（前期DI 62.4）、卸売業-16.8ポイント（同 70.2）、運輸・倉庫業-9.1ポイント（同 70.0）、製造業-8.9ポイント（同 68.7）、小売業-6.8ポイント（同 74.6）、建設業-6.3ポイント（同 82.9）の悪化となった。

規模別のDI値を見ると、中小企業は前期比-11.0ポイント（前期DI 72.3）、大企業では前期比-25.4ポイント（同 61.6）それぞれ悪化となった。

次四半期予測DI値は79.0と今期比+4.5ポイントの改善が予測されている。

（業界の景気動向（前年同期と比較して））

（単位 %）

	今四半期(20年10～12月期)実績							次四半期(21年1～3月期)予測						
	非常に良くなった	やや良くなった	横ばい	やや悪くなった	非常に悪くなった	未記入	DI値	非常に良くなる	やや良くなる	横ばい	やや悪くなる	非常に悪くなる	未記入	DI値
全業種	0.2	1.6	11.7	46.5	38.8	1.3	83.5	0.3	0.9	15.0	43.1	37.1	3.6	79.0
建設業	0.0	0.0	9.4	43.6	45.6	1.3	89.2	0.0	0.0	12.1	37.6	45.6	4.7	83.2
製造業	0.0	3.7	14.0	43.0	38.3	0.9	77.6	0.0	0.9	21.5	43.0	31.8	2.8	73.9
卸売業	0.0	1.4	8.6	49.6	38.8	1.4	87.0	0.0	2.2	10.1	46.0	38.8	2.9	82.6
小売業	1.4	2.9	10.0	45.7	40.0	0.0	81.4	2.9	1.4	15.7	44.3	32.9	2.9	72.9
運輸・倉庫業	0.0	0.0	20.8	45.8	33.3	0.0	79.1	0.0	0.0	12.5	58.3	29.2	0.0	87.5
サービス業	0.0	1.4	14.5	49.7	32.4	2.1	80.7	0.0	0.7	17.9	42.8	33.8	4.8	75.9
中小企業	0.2	1.5	11.9	45.4	39.6	1.4	83.3	0.3	0.9	15.1	42.2	37.8	3.7	78.8
大企業	0.0	2.2	8.7	60.9	28.3	0.0	87.0	0.0	2.2	13.0	54.3	28.3	2.2	80.4

## 2. 生産額、売上高、完成工事高

《6期連続して悪化、次期予測はさらに悪化へ》

生産額、売上額、完成工事高は、全業種平均で「増えた」と回答した企業割合は10.5%、「減った」と回答した企業割合は62.0%となっており、DI値は **51.5**（前期 **36.1**）と前期比-15.4ポイント悪化した。

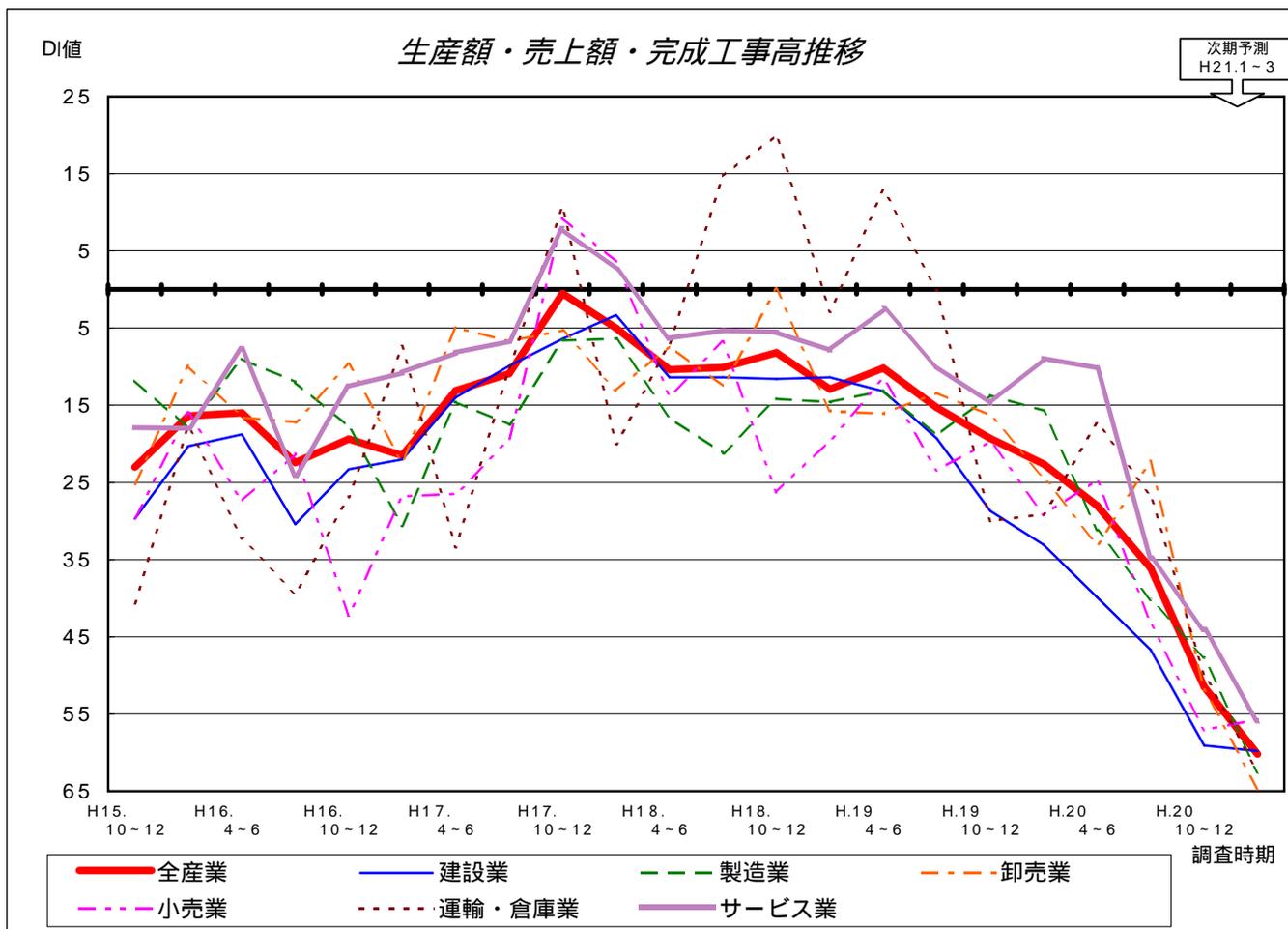
業種別に対前期比でDI値を見ると、全業種で悪化となり卸売業-29.6ポイント、運輸・倉庫業-23.2ポイント、小売業-13.8ポイント、建設業-12.4ポイント、サービス業-9.3ポイント、製造業-7.5ポイントの悪化となった。

売上が増加した理由としては、「受注、需要の増加」59.1%、「得意先開拓・客数の増加」47.0%に集中している。一方で、減少した理由としては、「受注、需要の減少」82.2%、「客単価の低下」35.1%、「得意先開拓・客数の減少」31.3%、「出荷・販売価格の上下、料金改定」27.7%の順となっている。

規模別のDI値を見ると、中小企業は前期比-15.2ポイント（前期DI値 37.1）、大企業では前期比-23.2ポイント（同 18.1）の悪化となった。

（単位 %）

	今四半期(20年10~12月期)実績							次四半期(21年1~3月期)予測						
	2ケタ増	1ケタ増	横ばい	1ケタ減	2ケタ減	未記入	DI値	2ケタ増	1ケタ増	横ばい	1ケタ減	2ケタ減	未記入	DI値
全業種	3.2	7.3	24.6	40.5	21.5	3.0	51.5	0.3	5.0	23.7	41.8	23.7	5.5	60.2
建設業	1.3	1.3	32.2	38.9	22.8	3.4	59.1	0.7	1.3	28.9	37.6	24.2	7.4	59.8
製造業	2.8	9.3	26.2	35.5	24.3	1.9	47.7	0.0	5.6	21.5	45.8	22.4	4.7	62.6
卸売業	3.6	8.6	19.4	43.2	20.9	4.3	51.9	0.7	3.6	20.9	42.4	26.6	5.8	64.7
小売業	4.3	10.0	11.4	50.0	21.4	2.9	57.1	0.0	10.0	18.6	44.3	21.4	5.7	55.7
運輸・倉庫業	0.0	4.2	33.3	33.3	20.8	8.3	49.9	0.0	4.2	25.0	45.8	20.8	4.2	62.4
サービス業	4.8	9.7	25.5	40.0	18.6	1.4	44.1	0.0	7.6	24.8	40.7	22.8	4.1	55.9
中小企業	3.4	6.5	24.7	40.1	22.1	3.2	52.3	0.3	4.4	24.3	40.8	24.3	5.8	60.4
大企業	0.0	17.4	23.9	45.7	13.0	0.0	41.3	0.0	13.0	15.2	54.3	15.2	2.2	56.5



参考資料：(2. 生産額、売上高、完成工事高)

今期の生産額、売上額、完成工事高が前年同期より増加した主な理由(複数回答可) (単位 %)

増加理由	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	然天 条件 候な どの 自	増受 加注 又は 需要 減少	情道 路の 変化 、交 通事	ズは製 消(商 変費者 二品 一又	金格出 改の荷 定上・ 下販・ 売料 価	促売 進出 等 の販 売	へ開新 進発製 出、(商 新分)品 野	業業大 種者手 の進企 参出業 入、他 同	客得 数の先 増開 減拓 ・	又客 は単 低価 下 の上 昇	品取 量の 増(商 減)
全業種	6.1	59.1	0.0	16.7	18.2	13.6	13.6	0.0	47.0	13.6	13.6
建設業	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
製造業	0.0	61.5	0.0	30.8	7.7	7.7	7.7	0.0	30.8	15.4	30.8
卸売業	11.8	82.4	0.0	11.8	29.4	5.9	17.6	0.0	47.1	11.8	29.4
小売業	20.0	10.0	0.0	20.0	40.0	50.0	20.0	0.0	60.0	0.0	0.0
運輸・倉庫業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
サービス業	0.0	57.1	0.0	14.3	9.5	9.5	14.3	0.0	47.6	23.8	0.0
中小企業	5.2	63.8	0.0	19.0	15.5	8.6	12.1	0.0	48.3	13.8	15.5
大企業	12.5	25.0	0.0	0.0	37.5	50.0	25.0	0.0	37.5	12.5	0.0

増加理由	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
	上品取 の扱 ダ品質 ウ質(商 ン向)	採路工 算線場 部拡、 門張、 縮、場 小不、	変移工 化転場 等、 立店 地舗 のの	約支店 店の開 増設、 増設、 特	力老設 の朽備 低下、 店競 舗争 の	又両機 は導機 廃入設 止、備 買・ 替車	員営 の業、 増、 減、 外 商 社	手技 の術者 増、 減、 運 転	又駐 は車 閉場 鎖の 増 設	そ の 他	無 回 答
全業種	1.5	3.0	1.5	4.5	0.0	3.0	7.6	0.0	1.5	6.1	0.0
建設業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
製造業	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	7.7	15.4	0.0	0.0	15.4	0.0
卸売業	5.9	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0
小売業	0.0	10.0	0.0	30.0	0.0	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0
運輸・倉庫業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
サービス業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	9.5	0.0
中小企業	1.7	3.4	1.7	1.7	0.0	3.4	8.6	0.0	0.0	6.9	0.0
大企業	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0

今期の生産額、売上額、完成工事高が前年同期より減少した主な理由(複数回答可) (単位 %)

減少理由	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	然天 条件 候な どの 自	増受 加注 又は 需要 減少	情道 路の 変化 、交 通事	ズは製 消(商 変費者 二品 一又	金格出 改の荷 定上・ 下販・ 売料 価	促売 進出 等 の販 売	へ開新 進発製 出、(商 新分)品 野	業業大 種者手 の進企 参出業 入、他 同	客得 数の先 増開 減拓 ・	又客 は単 低価 下 の上 昇	品取 量の 増(商 減)
全業種	4.3	82.2	0.5	13.7	27.7	2.3	0.8	11.7	31.3	35.1	6.9
建設業	0.0	91.3	0.0	4.3	18.5	0.0	0.0	12.0	30.4	31.5	3.3
製造業	4.7	85.9	0.0	9.4	28.1	1.6	0.0	9.4	15.6	21.9	12.5
卸売業	10.1	84.3	1.1	20.2	43.8	3.4	1.1	11.2	24.7	34.8	12.4
小売業	8.0	74.0	0.0	28.0	28.0	8.0	4.0	18.0	42.0	46.0	0.0
運輸・倉庫業	7.7	61.5	7.7	0.0	23.1	0.0	0.0	15.4	38.5	23.1	15.4
サービス業	0.0	75.3	0.0	14.1	21.2	1.2	0.0	9.4	43.5	44.7	3.5
中小企業	4.4	83.1	0.5	12.6	27.9	2.2	0.8	12.0	31.7	35.2	7.4
大企業	3.7	70.4	0.0	29.6	25.9	3.7	0.0	7.4	25.9	33.3	0.0

減少理由	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
	上品取 の扱 ダ品質 ウ質(商 ン向)	採路工 算線場 部拡、 門張、 縮、場 小不、	変移工 化転場 等、 立店 地舗 のの	約支店 店の開 増設、 増設、 特	力老設 の朽備 低下、 店競 舗争 の	又両機 は導機 廃入設 止、備 買・ 替車	員営 の業、 増、 減、 外 商 社	手技 の術者 増、 減、 運 転	又駐 は車 閉場 鎖の 増 設	そ の 他	無 回 答
全業種	2.5	1.3	1.3	0.3	2.8	2.5	3.3	3.1	0.3	6.9	2.5
建設業	4.3	0.0	0.0	0.0	1.1	3.3	3.3	7.6	0.0	5.4	3.3
製造業	1.6	3.1	3.1	0.0	3.1	3.1	0.0	1.6	0.0	3.1	3.1
卸売業	3.4	1.1	1.1	0.0	4.5	2.2	2.2	0.0	1.1	6.7	3.4
小売業	0.0	2.0	0.0	2.0	0.0	4.0	2.0	0.0	0.0	8.0	2.0
運輸・倉庫業	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	7.7	0.0	7.7	0.0	7.7	0.0
サービス業	2.4	1.2	2.4	0.0	3.5	0.0	8.2	3.5	0.0	10.6	1.2
中小企業	2.7	1.1	1.1	0.3	3.0	2.5	3.6	3.3	0.3	6.8	2.7
大企業	0.0	3.7	3.7	0.0	0.0	3.7	0.0	0.0	0.0	7.4	0.0

### 3. 原材料、製（商）品仕入価格

《7期ぶりに下落、次期予測も下落へ》

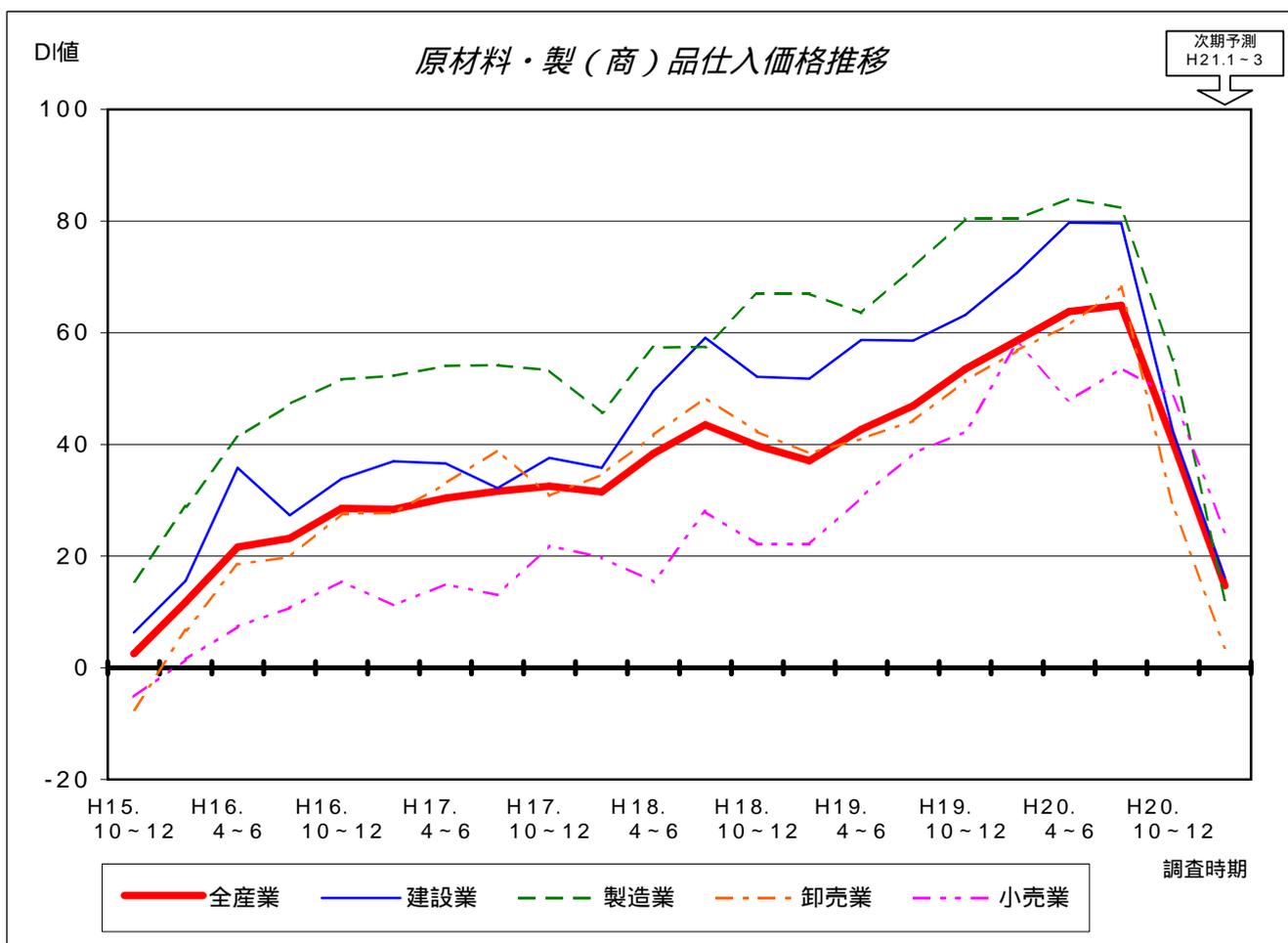
原材料、製（商）品仕入価格は「上昇」と回答した企業割合は47.8%、「下落」と回答した企業割合は7.4%となっており、DI値は40.4（前期DI値64.9）と前期比-24.5ポイントの「下落」となっている。

業種別に対前期比でDI値を見ると、卸売業-39.4ポイント、建設業-37.3ポイント、製造業-27.3ポイント、小売業-5.1ポイントの減少となっている。

また、次期予測DI値については、14.7となっており、今期比で-25.7ポイントの「下落」予測となっている。

（原材料、製品仕入価格(前年同期と比較して)） (単位%)

	今四半期(20年10~12月期)実績					次四半期(21年1~3月期)予測				
	上昇	横ばい	下落	未記入	DI値	上昇	横ばい	下落	未記入	DI値
全業種	47.8	36.8	7.4	8.0	40.4	25.7	52.2	11.0	11.0	14.7
建設業	51.0	34.9	8.7	5.4	42.3	25.5	53.7	9.4	11.4	16.1
製造業	62.6	29.0	7.5	0.9	55.1	25.2	55.1	13.1	6.5	12.1
卸売業	41.0	43.9	12.2	2.9	28.8	22.3	54.7	18.7	4.3	3.6
小売業	55.7	37.1	7.1	0.0	48.6	35.7	48.6	11.4	4.3	24.3
運輸・倉庫業	37.5	33.3	4.2	25.0	33.3	12.5	58.3	8.3	20.8	4.2
サービス業	37.9	37.9	2.1	22.1	35.8	26.9	46.9	4.1	22.1	22.8
中小企業	48.1	36.7	7.3	7.8	40.8	25.7	52.2	11.1	11.1	14.6
大企業	43.5	37.0	8.7	10.9	34.8	26.1	52.2	10.9	10.9	15.2



#### 4. 受注価格、販売価格

《3期連続して悪化、次期予測はさらに悪化へ》

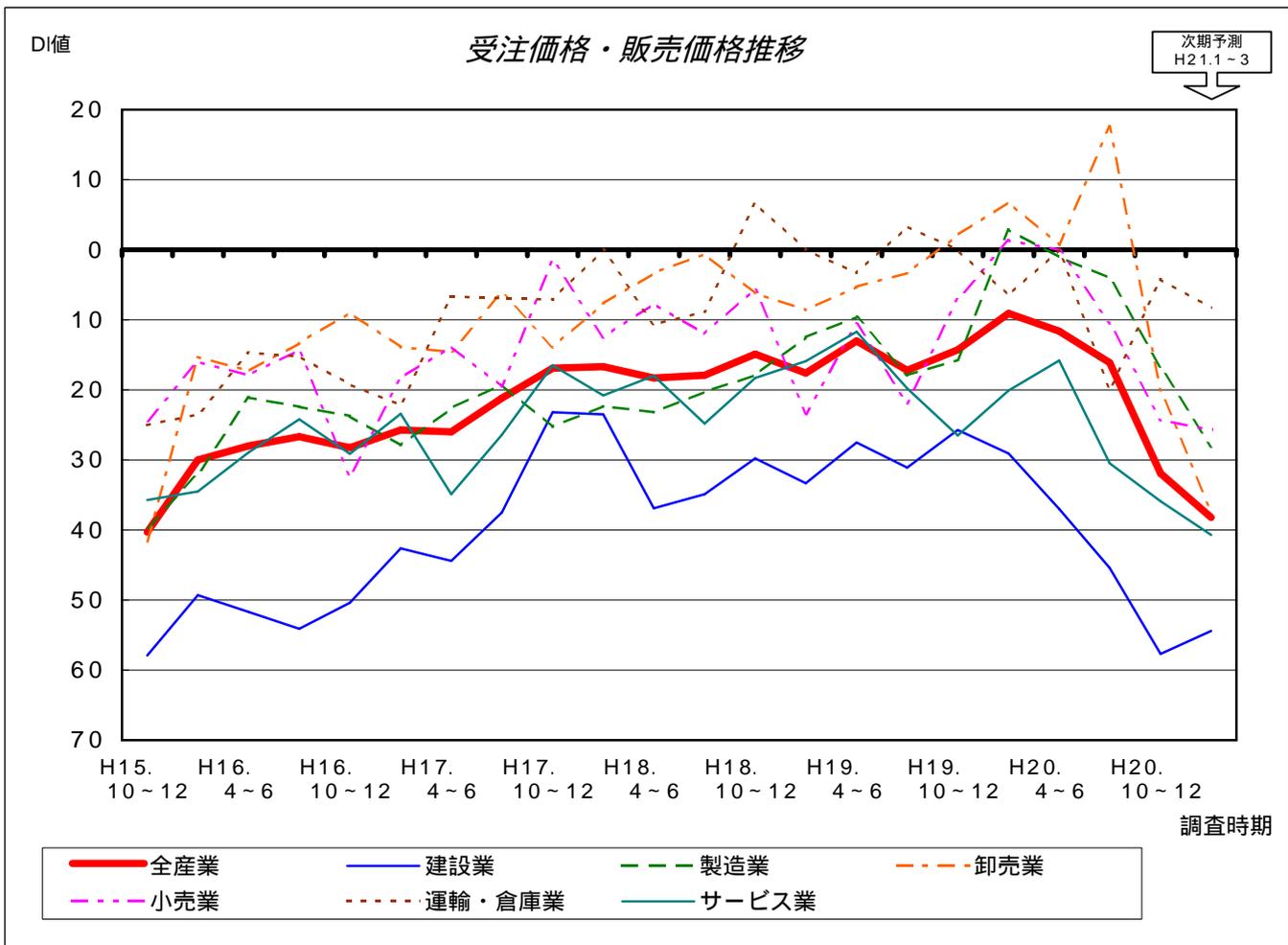
受注価格、販売価格については、「上昇」と回答した企業割合は9.9%、「下落」と回答した企業割合は41.8%となっており、DI値は31.9（前期DI値16.1）と前期比-15.8ポイント悪化した。

業種別に対前期比でDI値を見ると、運輸・倉庫業が+15.8ポイント改善したが、卸売業-37.7ポイント、小売業-13.8ポイント、製造業-12.8ポイント、建設業-12.3ポイント、サービス業-5.4ポイントの悪化となった。

次四半期予測DI値については、38.2となっており、今期比で-6.3ポイントの悪化予測となっている。

(受注価格、販売価格(前年同月と比較して)) (単位%)

	今四半期(20年10~12月期)実績					次四半期(21年1~3月期)予測				
	上昇	横ばい	下落	未記入	DI値	上昇	横ばい	下落	未記入	DI値
全業種	9.9	44.8	41.8	3.5	31.9	4.7	45.4	42.9	6.9	38.2
建設業	0.7	37.6	58.4	3.4	57.7	1.3	34.2	55.7	8.7	54.4
製造業	15.0	53.3	31.8	0.0	16.8	6.5	53.3	34.6	5.6	28.1
卸売業	18.0	41.7	38.1	2.2	20.1	6.5	45.3	43.9	4.3	37.4
小売業	18.6	38.6	42.9	0.0	24.3	11.4	47.1	37.1	4.3	25.7
運輸・倉庫業	8.3	62.5	12.5	16.7	4.2	4.2	66.7	12.5	16.7	8.3
サービス業	4.1	49.0	40.0	6.9	35.9	2.1	46.9	42.8	8.3	40.7
中小企業	10.0	44.6	41.7	3.7	31.7	4.4	45.1	43.0	7.5	38.6
大企業	8.7	47.8	43.5	0.0	34.8	8.7	50.0	41.3	0.0	32.6



## 5. 製(商)品在庫

《4期連続して悪化、次期予測は反転し改善へ》

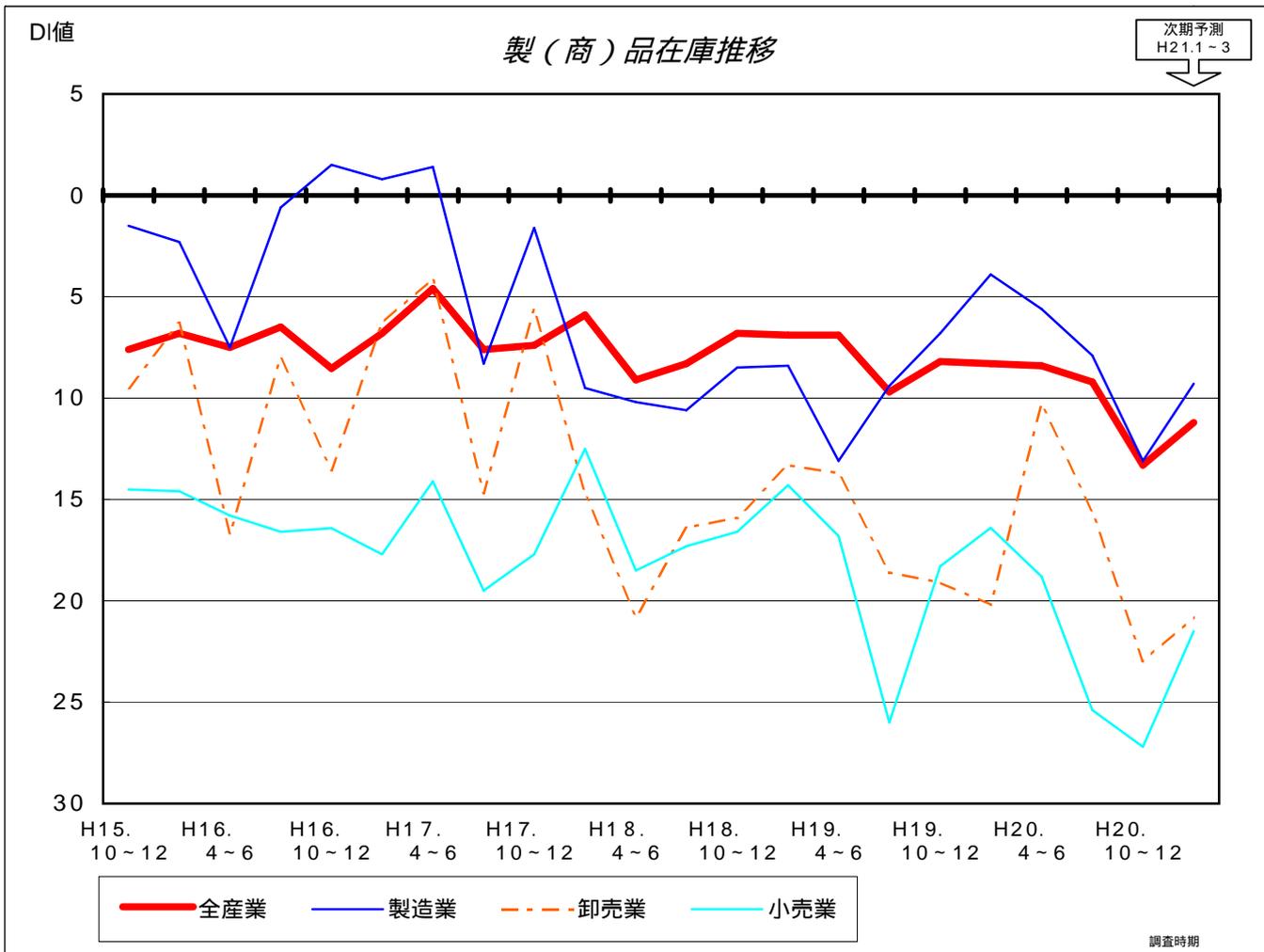
製(商)品在庫は、「適正」と回答した企業割合は59.0%、「不足」と回答した企業割合は2.2%、「過剰」と回答した企業割合は15.5%となっており、DI値は13.3(前期DI値9.2)と前期比-4.1ポイント悪化した。

次四半期予測DI値については11.2となっており、今期比で+2.1ポイントの改善が予測されている。

(製(商)品在庫(貴社の適正水準と比較して))

(単位%)

	今四半期(20年10~12月期)実績					次四半期(21年1~3月期)予測				
	不足	適正	過剰	未記入	DI値	不足	適正	過剰	未記入	DI値
全業種	2.2	59.0	15.5	23.3	13.3	1.9	58.2	13.1	26.8	11.2
建設業	0.0	47.0	6.7	46.3	6.7	0.0	45.0	4.0	51.0	4.0
製造業	3.7	74.8	16.8	4.7	13.1	2.8	73.8	12.1	11.2	9.3
卸売業	2.9	67.6	25.9	3.6	23.0	2.2	68.3	23.0	6.5	20.8
小売業	1.4	68.6	28.6	1.4	27.2	1.4	71.4	22.9	4.3	21.5
運輸・倉庫業	4.2	20.8	16.7	58.3	12.5	4.2	20.8	16.7	58.3	12.5
サービス業	2.8	53.1	6.9	37.2	4.1	2.8	50.3	8.3	38.6	5.5
中小企業	2.4	58.2	15.5	24.0	13.1	2.0	57.1	13.3	27.6	11.3
大企業	0.0	69.6	15.2	15.2	15.2	0.0	71.7	10.9	17.4	10.9



## 6. 営業利益

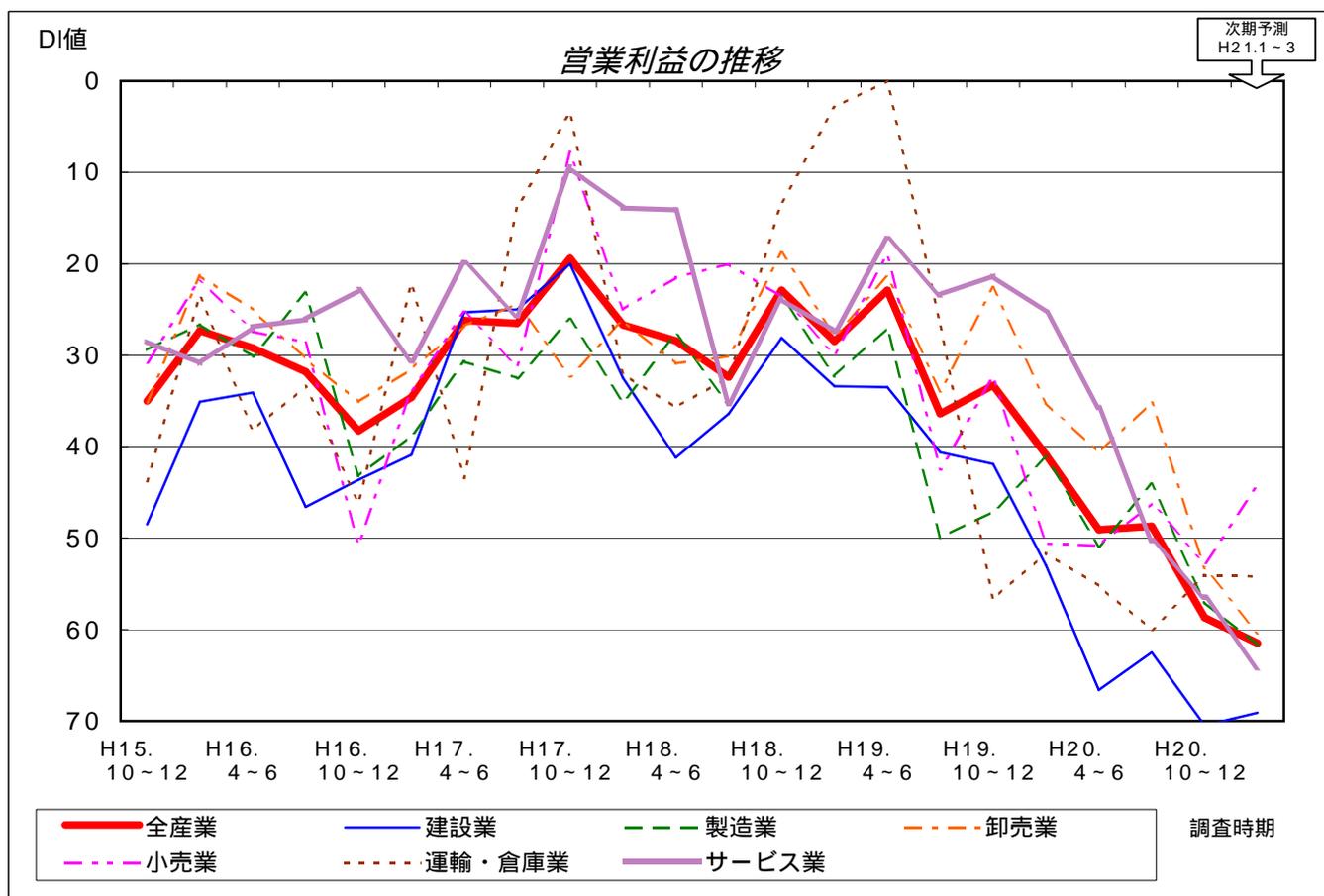
《2期ぶりに悪化、次期予測はさらに悪化へ》

営業利益は、「増加」と回答した企業割合は7.1%、「減少した」と回答した企業割合は65.8%、「横ばい」と回答した企業割合は25.7%となり、DI値は58.7（前期DI 48.7）と前期比-10.0ポイント悪化した。

業種別に対前期比でDI値を見ると、運輸・倉庫業が+5.9ポイント（前期DI値 60.0）改善したものの、卸売業-18.2ポイント（同 35.1）、製造業-12.9ポイント（同 44.1）、建設業-8.0ポイント（同 62.5）、小売業-6.6ポイント（同 46.2）、サービス業-6.2ポイント（同 50.3）の悪化となった。規模別のDI値を見ると、中小企業は前期比-8.8ポイント（前期DI 50.7）、大企業では前期比-29.8ポイント（同 18.0）それぞれ悪化した。

次四半期予測DI値は61.5と、今期比で-2.8ポイントの悪化が予測されている。

	（営業利益（前年同期と比較して））					（単位 %）				
	今四半期(20年10～12月期)実績					次四半期(21年1～3月期)予測				
	増加	横ばい	減少	未記入	DI値	増加	横ばい	減少	未記入	DI値
全業種	7.1	25.7	65.8	1.4	58.7	4.6	24.3	66.1	5.0	61.5
建設業	2.7	22.8	73.2	1.3	70.5	2.0	19.5	71.1	7.4	69.1
製造業	10.3	22.4	67.3	0.0	57.0	6.5	19.6	68.2	5.6	61.7
卸売業	7.9	30.9	61.2	0.0	53.3	2.9	30.9	63.3	2.9	60.4
小売業	8.6	27.1	61.4	2.9	52.8	10.0	28.6	54.3	7.1	44.3
運輸・倉庫業	4.2	33.3	58.3	4.2	54.1	8.3	29.2	62.5	0.0	54.2
サービス業	8.3	24.1	64.8	2.8	56.5	4.1	23.4	68.3	4.1	64.2
中小企業	6.8	25.3	66.3	1.5	59.5	4.3	24.0	66.3	5.4	62.0
大企業	10.9	30.4	58.7	0.0	47.8	8.7	28.3	63.0	0.0	54.3



## 7. 売掛期間

《3期連続して悪化、次期予測はさらに悪化へ》

売掛期間は、「短縮化」と回答した企業割合は1.6%、「長期化」と回答した企業割合は14.4%、「不変」と回答した企業割合は81.2%となっており、DI値は12.8と前期比-2.0ポイント悪化した。

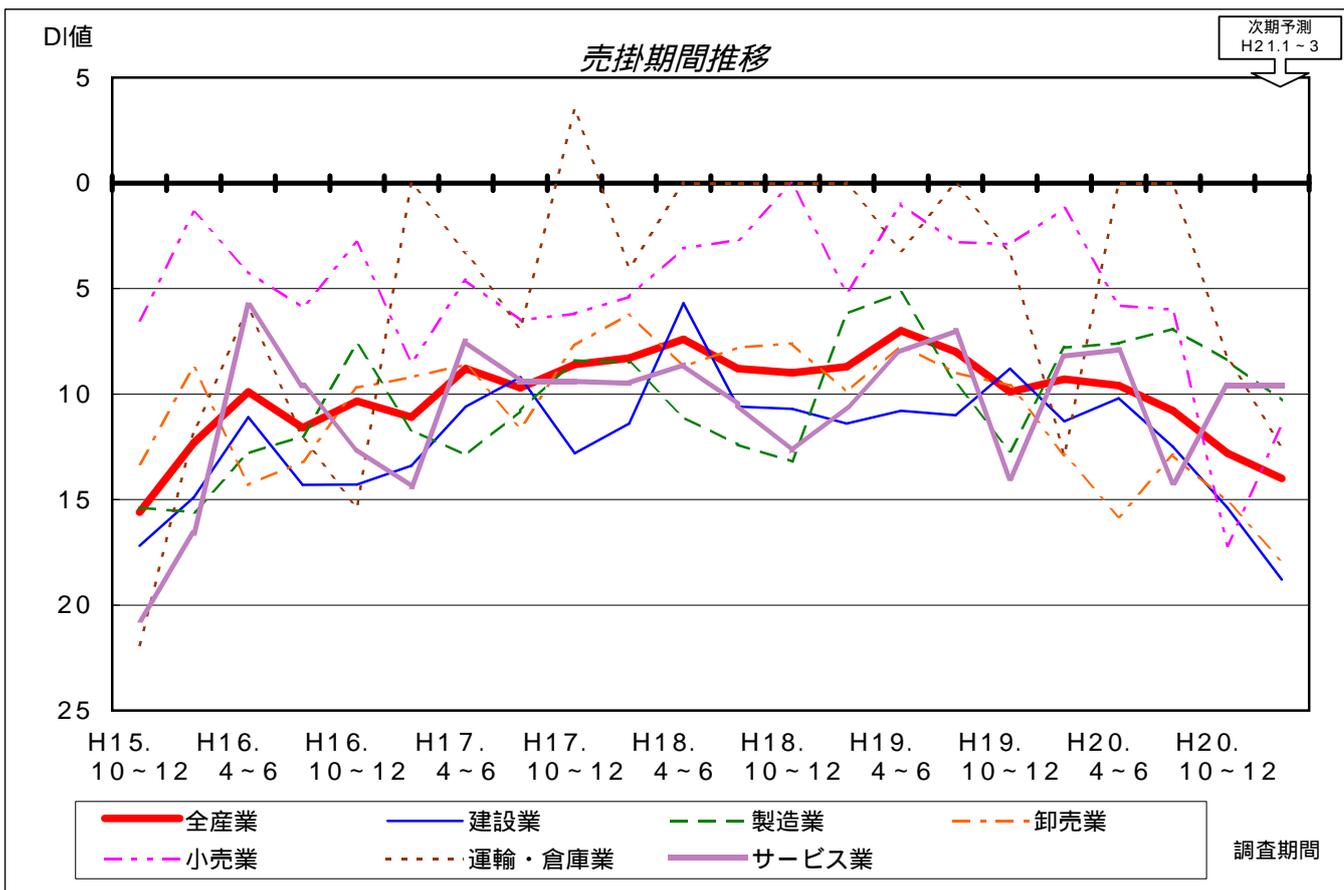
規模別のDI値を見ると、中小企業は前期比-2.5ポイント（前期DI 11.1）悪化し、大企業では前期比+2.9ポイント（同 5.1）改善した。

次四半期のDI値については14.0と、今期比で-1.2ポイントの悪化が予測されている。

（売掛期間（前年同期と比較して））

（単位 %）

	今四半期(20年10~12月期)実績					次四半期(21年1~3月期)予測				
	短縮化	不変	長期化	未記入	DI値	短縮化	不変	長期化	未記入	DI値
全業種	1.6	81.2	14.4	2.8	12.8	1.1	77.0	15.1	6.8	14.0
建設業	0.7	81.9	16.1	1.3	15.4	0.7	71.8	19.5	8.1	18.8
製造業	1.9	87.9	10.3	0.0	8.4	0.0	84.1	10.3	5.6	10.3
卸売業	2.9	78.4	18.0	0.7	15.1	2.2	74.8	20.1	2.9	17.9
小売業	1.4	78.6	18.6	1.4	17.2	1.4	78.6	12.9	7.1	11.5
運輸・倉庫業	0.0	83.3	8.3	8.3	8.3	0.0	83.3	12.5	4.2	12.5
サービス業	1.4	79.3	11.0	8.3	9.6	1.4	77.2	11.0	10.3	9.6
中小企業	1.4	80.8	15.0	2.9	13.6	0.9	76.0	16.0	7.1	15.1
大企業	4.3	87.0	6.5	2.2	2.2	4.3	89.1	4.3	2.2	0.0



## 8. 資金繰り

《3期連続して悪化、次期予測はさらに悪化へ》

資金繰りについては、「楽である」と回答した企業は4.7%、「苦しい」と回答した企業は39.3%、「不変」と回答した企業は54.3%となっており、DI値は 34.6（前期DI 28.3）と前期比-6.3ポイント悪化した。

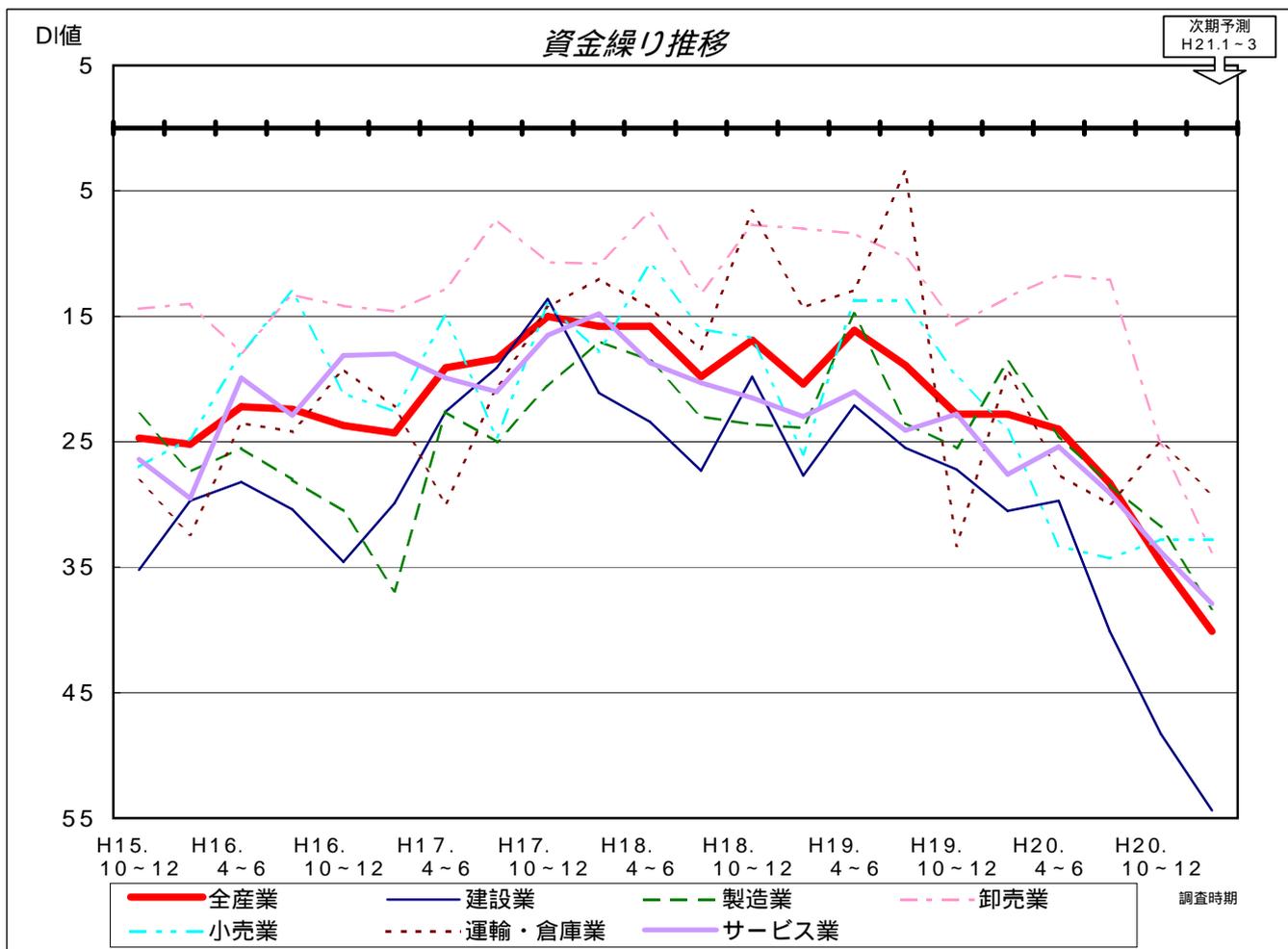
業種別に対前期比でDI値を見ると、運輸・倉庫業が+5.0ポイント、小売業+1.5ポイント改善したものの、卸売業-13.1ポイント、建設業-8.2ポイント、サービス業-4.7ポイント、製造業-3.4ポイントの悪化となった。

規模別のDI値を見ると、中小企業は前期比-6.9ポイント（前期DI 29.8）、大企業では前期比-1.5ポイント（同 5.1）のそれぞれ悪化となった。

（資金繰り(前年同期と比較して)）

（単位 %）

	今四半期(20年10~12月期)実績					次四半期(21年1~3月期)予測				
	楽である	不変	苦しい	未記入	DI値	楽になる	不変	苦しくなる	未記入	DI値
全業種	4.7	54.3	39.3	1.7	34.6	3.0	47.8	43.1	6.2	40.1
建設業	2.7	45.6	51.0	0.7	48.3	1.3	35.6	55.7	7.4	54.4
製造業	6.5	54.2	38.3	0.9	31.8	4.7	45.8	43.0	6.5	38.3
卸売業	7.2	59.7	32.4	0.7	25.2	4.3	54.0	38.1	3.6	33.8
小売業	2.9	60.0	35.7	1.4	32.8	2.9	54.3	35.7	7.1	32.8
運輸・倉庫業	0.0	70.8	25.0	4.2	25.0	0.0	70.8	29.2	0.0	29.2
サービス業	4.8	52.4	38.6	4.1	33.8	2.8	49.0	40.7	7.6	37.9
中小企業	4.8	52.2	41.5	1.5	36.7	3.1	45.4	45.2	6.3	42.1
大企業	4.3	80.4	10.9	4.3	6.6	2.2	78.3	15.2	4.3	13.0



## 9. 100万円以上の新規借入

100万円以上の新規借入を「行った」とする企業は49.7%（前期47.2%）と前期比で+2.5%の増加となった。一方で、「行ってない」とする企業は47.9%（前期50.9%）と前期比で-3.0%の減少となった。

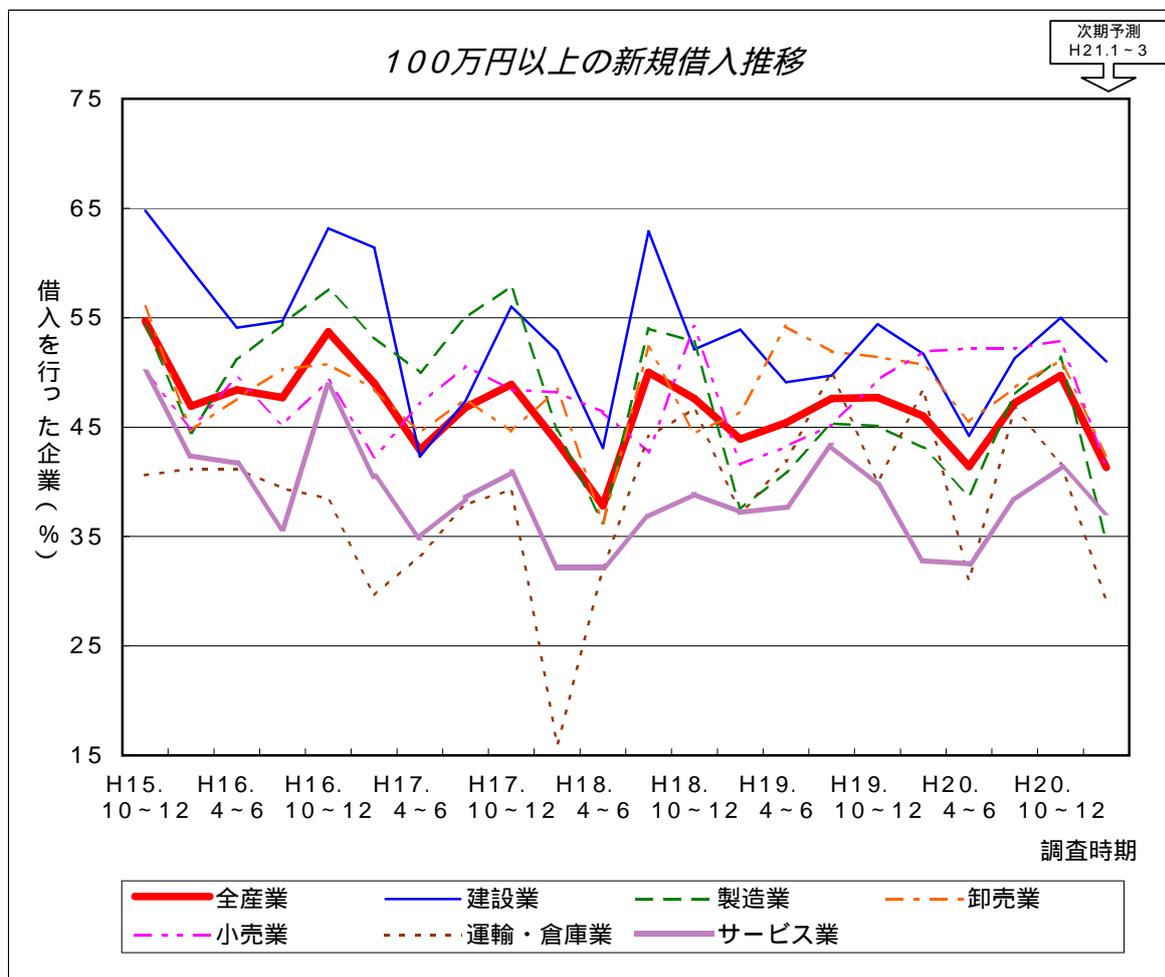
資金用途については、「運転」75.9%、「運転・設備」13.7%、「設備」5.7%という内訳になっている。

次四半期については、「行う予定」とする企業は41.3%、「行わない」とする企業は53.3%となっている。

（100万円以上の新規借入）

（単位：%）

	今四半期(20年10~12月期)実績			次四半期(21年1~3月期)予測		
	行った	行ってない	無回答	行う予定	行わない	無回答
全業種	49.7	47.9	2.4	41.3	53.3	5.4
建設業	55.0	42.3	2.7	51.0	43.6	5.4
製造業	51.4	46.7	1.9	34.6	57.9	7.5
卸売業	51.1	47.5	1.4	42.4	56.1	1.4
小売業	52.9	45.7	1.4	41.4	51.4	7.1
運輸・倉庫業	41.7	54.2	4.2	29.2	66.7	4.2
サービス業	41.4	55.2	3.4	37.2	55.9	6.9
中小企業	48.8	49.0	2.2	40.1	54.6	5.3
大企業	60.9	34.8	4.3	56.5	37.0	6.5



# 100万円以上の新規借入資金使途

(単位 %)

	今四半期100万円以上の 新規借入の資金使途(実績)				次四半期100万円以上の 新規借入予定の資金使途(予測)			
	運転資金	運転設備	設備資金	無回答	運転資金	運転設備	設備資金	無回答
全業種	75.9	13.7	5.7	4.8	74.8	12.6	7.6	5.0
建設業	86.6	3.7	4.9	4.9	86.8	5.3	3.9	3.9
製造業	80.0	16.4	1.8	1.8	75.7	16.2	5.4	2.7
卸売業	71.8	18.3	2.8	7.0	67.8	16.9	6.8	8.5
小売業	59.5	29.7	10.8	0.0	65.5	24.1	6.9	3.4
運輸・倉庫業	80.0	10.0	0.0	10.0	57.1	14.3	0.0	28.6
サービス業	71.7	10.0	11.7	6.7	72.2	9.3	16.7	1.9
中小企業	78.4	12.2	4.2	5.2	77.5	10.6	6.4	5.5
大企業	50.0	28.6	21.4	0.0	50.0	30.8	19.2	0.0

## 10. 100万円以上の設備投資

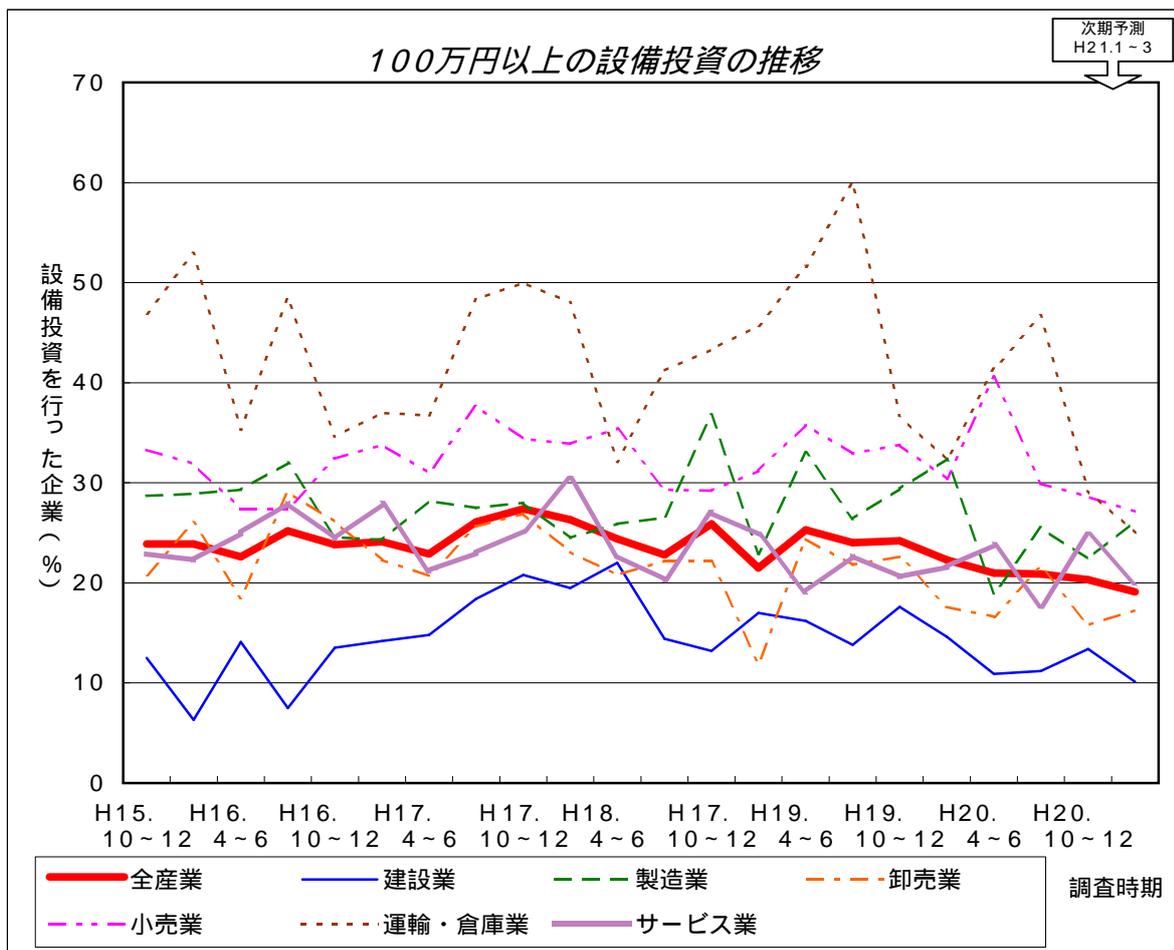
100万円以上の設備投資を「行った」とする企業は20.3%、「行ってない」とする企業は74.8%となっており、その投資内容については、「新規」26.4%、「新規・更新」34.1%、「更新」31.0%という内訳になった。

次期予測については、「行う予定」とする企業は19.1%、「行わない」とする企業は73.5%であり、その投資内容については、「新規」33.9%、「新規・更新」33.1%、「更新」26.4%となっている。

( 100万円以上の設備投資 )

( 単位 % )

	今四半期(20年10~12月期)実績			次四半期(21年1~3月期)予測		
	行った	行ってない	無回答	行う予定	行わない	無回答
全業種	20.3	74.8	4.9	19.1	73.5	7.4
建設業	13.4	80.5	6.0	10.1	82.6	7.4
製造業	22.4	76.6	0.9	26.2	67.3	6.5
卸売業	15.8	77.7	6.5	17.3	72.7	10.1
小売業	28.6	70.0	1.4	27.1	64.3	8.6
運輸・倉庫業	29.2	62.5	8.3	25.0	75.0	0.0
サービス業	24.8	69.0	6.2	20.0	73.8	6.2
中小企業	16.8	78.2	4.9	16.3	76.4	7.3
大企業	65.2	30.4	4.3	54.3	37.0	8.7



## 100万円以上の設備投資

(単位 %)

	今四半期100万円以上の 設備投資の資金使途(実績)				次四半期100万円以上の 設備投資計画の資金使途(予測)			
	新規	新規、更新	更新	無回答	新規	新規、更新	更新	無回答
全業種	26.4	34.1	31.0	8.5	33.9	33.1	26.4	6.6
建設業	45.0	25.0	30.0	0.0	20.0	33.3	40.0	6.7
製造業	20.8	37.5	29.2	12.5	28.6	21.4	39.3	10.7
卸売業	18.2	27.3	45.5	9.1	33.3	41.7	20.8	4.2
小売業	35.0	35.0	20.0	10.0	42.1	42.1	10.5	5.3
運輸・倉庫業	0.0	42.9	42.9	14.3	0.0	33.3	50.0	16.7
サービス業	25.0	38.9	27.8	8.3	48.3	31.0	17.2	3.4
中小企業	27.3	30.3	33.3	9.1	36.5	28.1	28.1	7.3
大企業	23.3	46.7	23.3	6.7	24.0	52.0	20.0	4.0

## 11. 当面の経営上の問題点

当面の経営上の問題点としては、「売上高、生産額、工事高の伸び悩み」67.8%、「営業利益の低下」58.5%、「受注、販売競争の激化」56.9%、「販売価格への転嫁難」27.6%、「経費の増加」21.5%の5項目を指摘する傾向が続いており、全業種ともほぼ5項目に集中している。

他に指摘が集中した項目として、建設業の「官公需要の停滞」46.3%、小売業の「同業者、類似店、大型店の進出」27.1%が挙げられ、さらに前期まで上位項目であった「原材料高、入手難」が全業種で前期の35.6%から19.6%へと減少したことが特徴となっている。

( 当面の経営上の問題点(複数回答可) )

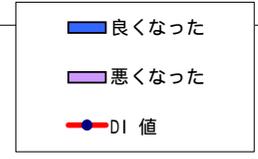
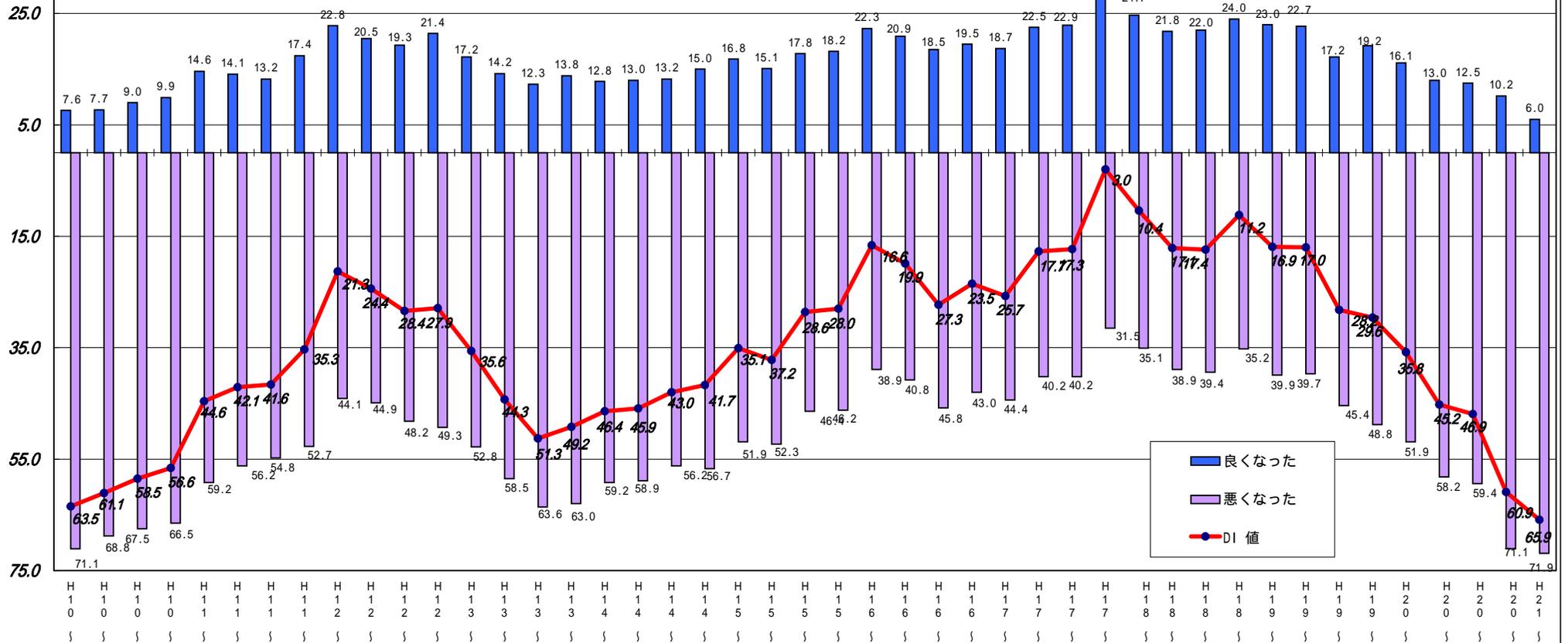
( 単位 % )

問題点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	の受注激化、販売競争	び額売、上額、工事高の産伸	出店、業者、大型店の進	官公需要の停滞	輸出不振	元請の減少	低操下業率、稼働率	難原材高、入手	の出荷下、納品価格	過剰在庫	嫁販売価格への転	増難販、売不代金の債権の収	化売掛金の長期
全業種	56.9	67.8	11.4	21.6	2.4	9.3	7.4	19.6	16.2	5.7	27.6	10.6	8.8
建設業	69.1	78.5	9.4	46.3	0.7	27.5	6.7	20.1	7.4	1.3	17.4	8.7	11.4
製造業	50.5	65.4	7.5	16.8	3.7	1.9	15.9	36.4	26.2	6.5	40.2	7.5	9.3
卸売業	58.3	68.3	10.1	13.7	6.5	0.7	3.6	17.3	24.5	10.1	37.4	20.9	12.2
小売業	61.4	60.0	27.1	5.7	0.0	0.0	0.0	15.7	15.7	12.9	27.1	11.4	5.7
運輸・倉庫業	20.8	54.2	12.5	16.7	4.2	8.3	25.0	12.5	0.0	0.0	16.7	4.2	4.2
サービス業	51.7	64.1	9.7	15.9	0.0	9.0	6.2	11.7	13.1	2.8	21.4	5.5	4.8
中小企業	56.1	68.4	10.2	22.3	2.4	10.0	7.7	19.7	16.8	5.3	27.6	10.5	9.4
大企業	67.4	60.9	26.1	13.0	2.2	0.0	4.3	17.4	8.7	10.9	28.3	10.9	2.2

問題点	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
	経費の増加	営業利益の低下	不隘店、舗、駐工場用地狭	代化、舗、老朽化、設備過	店、舗、設	が家賃地代の値上	化難人、材、定着、性の悪	費人手過剩、人件	対労務管理、組合	資金借入難	金利負担増加	難情報不足、人材	その他
全業種	21.5	58.5	1.3	3.6	0.8	13.1	5.8	3.2	10.6	7.6	3.6	2.2	3.3
建設業	18.1	65.8	1.3	1.3	0.7	11.4	5.4	0.7	14.1	10.1	3.4	2.0	0.7
製造業	19.6	56.1	1.9	6.5	0.9	3.7	4.7	1.9	12.1	7.5	0.9	0.9	6.5
卸売業	20.1	59.7	1.4	5.0	0.0	10.1	1.4	2.2	5.0	6.5	3.6	2.9	2.2
小売業	22.9	55.7	0.0	2.9	1.4	18.6	10.0	7.1	7.1	8.6	1.4	1.4	2.9
運輸・倉庫業	37.5	54.2	0.0	4.2	4.2	16.7	4.2	12.5	0.0	16.7	0.0	4.2	8.3
サービス業	24.1	53.8	1.4	2.8	0.7	21.4	9.7	4.1	14.5	4.1	7.6	2.8	4.1
中小企業	21.3	59.2	1.4	3.7	0.7	12.4	5.4	2.9	11.4	7.7	3.7	2.2	3.4
大企業	23.9	50.0	0.0	2.2	2.2	21.7	10.9	6.5	0.0	6.5	2.2	2.2	2.2

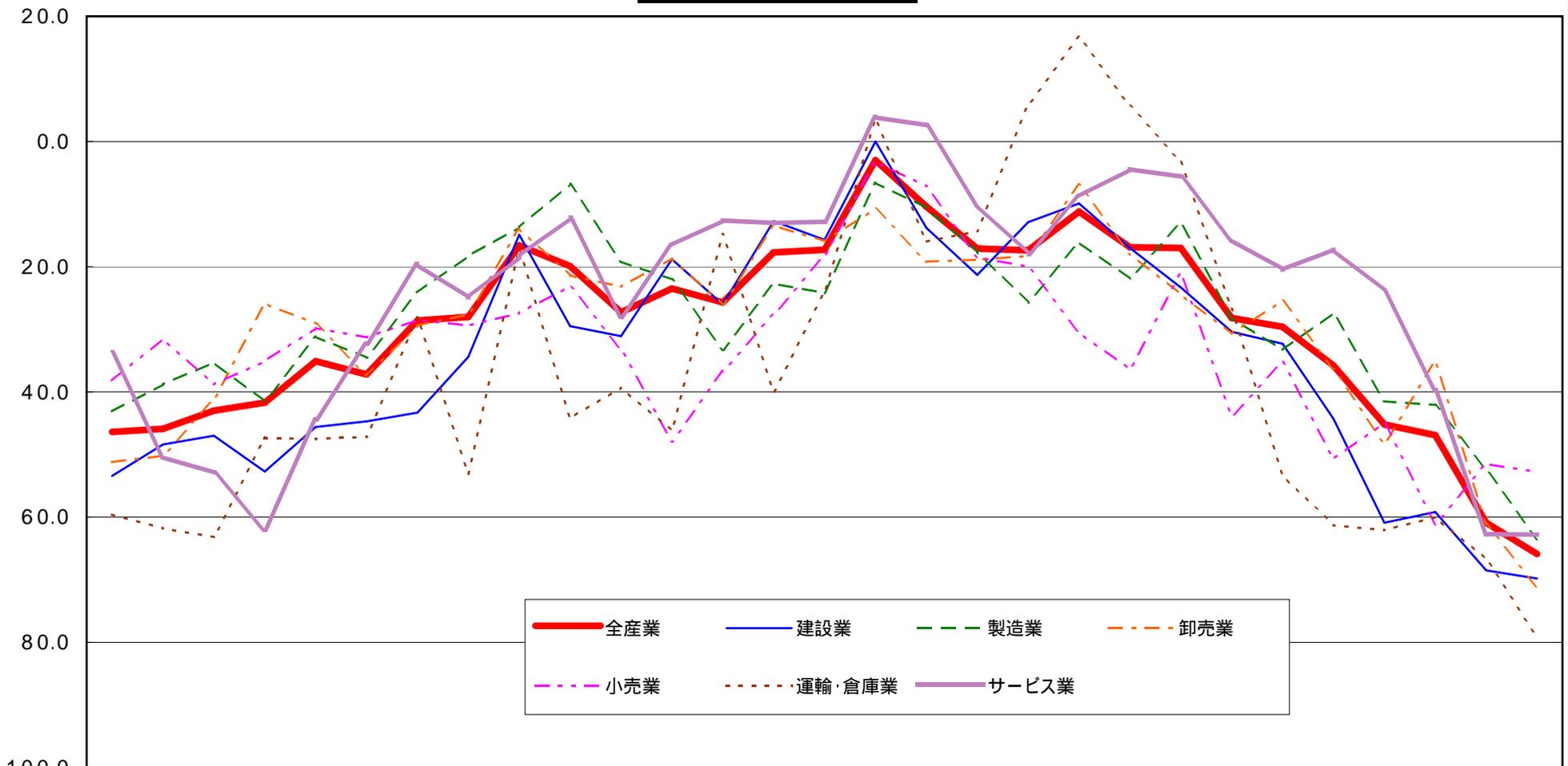
自社業況の景況判断推移（「良くなった」「悪くなった」別、時代背景参考）

自社業況DI値の推移



- 企業倒産件数戦後最悪
- 失業率最悪四・一%
- 東証株バブル後最安値
- 最大九兆三千億円減税
- 地域振興券交付
- 男性失業率初五%台
- 一動富士興銀統合発表
- 経済新生対策十八兆円
- 公示地価九年連続下落
- 大卒就職率最低九一・一%
- 九州沖縄サミット開催
- 倒産負債最悪二四兆円
- 日銀量的金融緩和決定
- 小泉内閣骨太方針発表
- 米テロ東証株一万円割
- 失業率悪化五・五%
- 日経平均九千五百円割れ
- 政府景気底入れ判断
- 輸出と生産の好循環に陰り
- 総合デフレ対策の発表
- 日経平均八千円割れ
- イラク戦争SARS
- 日経平均一万円台回復
- 暖冬、足利銀行国有化
- 鳥インフルエンザ、九州新幹線開業
- 消費税法改正、年金改革法案成立
- 参院選民主党躍進、国の債務残高七百兆円突破
- 新潟中越地震、新紙幣発行
- 愛知万博開幕、福岡沖地震、地下鉄七隈線
- 個人情報保護法、ペイオフ全面解禁
- 衆議院選挙自民大勝
- 日経平均一万六千円台回復、構造計算偽造問題
- 改正道路交通法施行、新会社法施行
- 日銀平均一万七千円台回復
- 日銀量的緩和と政策解除
- 安部内閣発足
- 米産牛肉輸入再開
- 対ユーロ最安値を更新
- 日銀による追加利上げ
- 参院選と野党逆転、安部首相辞任
- 福田内閣発足
- 中国製冷凍餃子中毒問題発生、白川日銀総裁誕生
- 4月オソリン税暫定税率廃止、原油価格1バレル140円突破
- フラーズ大破綻
- 福田首相辞任、麻生内閣発足、米国リーマン
- 日銀政策金利下げ、トヨタ赤字転落発表、派遣切りが社会問題
- 来期予測

### 自社業況DI値の推移



	H14. 1~3	H14. 4~6	H14. 7~9	H14. 10~12	H15. 1~3	H15. 4~6	H15. 7~9	H15. 10~12	H16. 1~3	H16. 4~6	H16. 7~9	H16. 10~12	H17. 1~3	H17. 4~6	H17. 7~9	H17. 10~12	H18. 1~3	H18. 4~6	H18. 7~9	H18. 10~12	H19. 1~3	H19. 4~6	H19. 7~9	H19. 10~12	H20. 1~3	H20. 4~6	H20. 7~9	H20. 10~12	H21. 1~3
全産業	46.4	45.9	43.0	41.7	35.1	37.2	28.6	28.0	16.6	19.9	27.3	23.5	25.7	17.7	17.3	3.0	10.4	17.1	17.4	11.2	16.9	17.0	28.2	29.6	35.8	45.2	46.9	60.9	65.9
建設業	53.4	48.4	47.0	52.7	45.6	44.7	43.3	34.4	14.9	29.5	31.1	18.8	26.0	12.7	15.7	0.0	13.8	21.3	12.9	9.9	17.0	23.3	30.4	32.3	44.3	60.9	59.2	68.5	69.8
製造業	43.1	38.8	35.3	41.5	31.2	34.5	24.1	18.3	13.7	6.8	19.2	22.0	33.3	22.7	24.2	6.6	10.6	17.6	25.7	16.1	21.9	13.0	28.2	33.3	27.4	41.5	42.1	52.4	63.5
卸売業	51.2	50.2	41.2	25.9	29.1	37.4	29.4	27.6	13.9	21.4	23.2	18.7	26.1	13.4	15.9	10.7	19.2	18.9	18.3	6.9	17.9	24.4	30.7	25.4	36.4	48.3	35.1	61.1	71.2
小売業	38.2	31.5	38.8	35.1	29.8	31.3	28.5	29.4	27.4	23.1	33.2	47.9	36.7	27.6	18.2	3.2	7.2	18.5	20.0	30.5	36.4	21.0	43.9	35.2	50.7	44.9	61.1	51.5	52.8
運輸・倉庫業	59.6	61.8	63.2	47.4	47.5	47.2	28.1	53.1	17.1	44.2	39.3	46.2	14.8	40.0	24.1	3.6	16.0	14.3	5.9	16.7	5.7	3.2	26.7	53.3	61.3	62.1	60.0	66.7	79.1
サービス業	33.7	50.4	52.9	62.0	44.4	32.3	19.6	25.0	18.4	12.2	28.0	16.5	12.6	13.0	12.8	3.9	2.6	10.1	18.0	8.8	4.4	5.6	15.7	20.5	17.2	23.9	39.7	62.7	62.8